

総合診療を学ぶ特訓ゼミ第3シリーズ開催のお知らせ

茨城県地域医療支援センター特別講師（JCHO本部顧問）徳田 安春先生の監修により、「臨床推論8番勝負」と題して“実践志向”であり、かつ“グローバルな視点”から、“徹底した臨床推論能力の習得”をテーマとする講義・グループ討議・ケースカンファレンスを行います。



総合監修

徳田 安春氏茨城県地域医療支援センター
特別講師
(JCHO本部顧問)

期 日	平成 27 年 11 月 28 日(土)～29 日(日) 1泊2日
対 象	医師・医学生 100名 (全国公募)
場 所	オーシャンビュー大洗 (茨城県東茨城郡大洗町東光台 8234-1)
受 講 料	医師、医学生ともに、8,000円
募 集	平成 27 年 10 月 23 日(金)まで
申込方法	茨城県地域医療支援センター ホームページからお申込みください。



◆臨床推論8番勝負

茨城県内を代表する指導医が、総合診療、小児、外科、救急、産婦人科、整形外科、精神科における選りすぐりの症例をもとにカンファレンス形式のゼミを実施します。

総合診療

「患者さんの言葉に耳を傾けることから始まる臨床推論」

東京医科大学茨城医療センター 内科(総合診療)

卒後臨床研修センター **柳生 久永 先生**

患者さんや家族の言葉に先入観を持たず耳を傾け、得られた情報の重要性を判断することが重要です。一方、比較的コモンな疾患や病態が、必ずしも教科書的な主訴で受診するとは限りません。今回実際に経験した症例を通して情報収集の大切さを学んでみたいと思います。

「悪寒、頭痛、嘔下時痛を訴える61歳男性」

筑波大学附属病院 総合診療グループ **中澤 一弘 先生**

突然の悪寒後に頭痛と嘔下時痛が出現し、開口障害がみられた患者のその原因とは…。単なる風邪と危険な疾患とを見分ける重要性に気付かされる症例。

小児科

「小児の診察、assessment」

筑波メディカルセンター 小児科 **石踊 巧 先生**

自ら訴えることのできない小児の診察では、病歴、身体所見を総合的に検討する能力が求められる。症例から全人的診察と影に隠れやすい微候への気付きの重要性について学ぶ。

外科

「心臓外科領域の救急疾患」

筑波大学附属病院 心臓血管外科 **徳永 千穂 先生**

心臓血管外科疾患の初期診断から治療までのプロセスの学習。

救急

「貴院かかりつけ80代女性、強い呼吸困難で体動不能です。収容できますか？」

水戸医療センター 循環器科・救急部 **山田 理仁 先生**

あなたは今晚、某病院で当直中です。当院には人工呼吸器もエコー機器もありますし循環器や呼吸器のベテランスタッフへの相談も可能な状況です。高齢化が進み老老介護状態の家庭が増え、症状がひどくなってからの救急車要請が増加しています。

「搬送して下さい。ところで…」(あなたの活躍の一助となりますよう)

産婦人科

「女性の腹痛を診たら…」

県北医療センター高萩協同病院 産婦人科 **岡崎 有香 先生**

山ほどある腹痛を来す疾患の中で、比較的除外しやすいが見逃すと生死に関わるのが婦人科疾患ではないかと思っています。診療の流れを一緒に考えましょう。

整形外科

「整形外科の初期臨床におけるポイント」

水戸済生会総合病院 整形外科 **須藤 洋輔 先生**

骨折や脊髄損傷などの整形外科的疾患を救急外来でファーストタッチした際に見逃してはならない所見、取らなければならない身体所見、撮るべき画像を一緒に考えていきましょう。

精神科

「かき氷器で父の頭を殴りつけた30代女性」

こころの医療センター 第四医療局 **白鳥 裕貴 先生**

精神科病院の症例は、総合診療とは少しだけ離れるかもしれませんが。しかし、「聞きにくいことを聞く」技術は、先生方のお役に立てると思います。

◆講義

「こんなときフィジカル～スペシャルフィジカル診断ショー～」茨城県地域医療支援センター特別講師 **徳田 安春 先生**

患者層の高齢化によりフィジカル診断の重要性が増してきています。認知症で病歴が十分に取れないとき。在宅医療の場面で検査ができないとき。こんなときにはやはりフィジカルです。スペシャルフィジカル診断ショーを体験学習します。

「Agricultural Medicine」Cornell University **Richard Birrer 先生**

農業に関連する外傷、薬物中毒、整形外科的疾患、生活習慣病などについて、様々な症例を基に学習します。

主催

茨城県地域医療支援センター

(茨城県保健福祉部医療対策課 医師確保対策室内)

お問い合わせ先

【総合診療を学ぶ特訓ゼミ】運営受託会社 株式会社日本経済広告社

TEL.03-6869-0801 E-mail:ibaraki-tokkun@jimukyoku.co.jp

「幅広く対応するのが総合診療科、経験を積んで自分が成長する能力も求められます」

阿見町にある東京医科大学茨城医療センターの総合診療医として地域医療を支え、茨城県地域医療支援センターのキャリアコーディネーターとして若手医師をサポートする柳生久永先生にお話を伺いました。

…先生ご自身のことを教えてください。

茨城県土浦市の出身で、生まれたときから高校までずっと土浦で育ち、大学は東京医科大学に進学しました。大学3年生の時に父が亡くなり、私は一人っ子なので、母を独りにしておくよりもそばにいたいと思い、初期研修から筑波大学附属病院に戻ってきました。また、自分の大学ではなく、これまでと異なった環境で自分の力を磨いてみたかったという気持ちもありました。筑波大学附属病院で呼吸器内科を6年間勉強して、東京医科大学茨城医療センターの前身の東京医科大学霞ヶ浦病院に呼吸器内科医として勤務して現在に至ります。

●総合的な考え方でできる医師が求められていた。

…総合診療科に進まれたきっかけは？

もともと呼吸器内科専門医として肺癌や気管支喘息などの診療に従事していたのですが、呼吸器の病気を持っている人でも、他にも沢山の問題を抱えている患者さんや、呼吸器内科に通院しているも他領域の疾患で入院する患者さんもいたことから、様々な病気を持っている人を広い目で診てみたいと思いました。僕らが医者になった時代には総合診療科はなかったのですが、10年位前からこの分野ができてきていました。もともと新しい事を始めるのが好きだったこともあり、

東京医科大学茨城医療センター

総合診療科科長・臨床教授・卒後臨床研修センター長 柳生 久永



その立ち上げに携わりたいと考えました。キャリアチェンジと言うのでしょうか、自分の分野からちょっと外れたかもしれませんが、方向性を少し変えてみました。何か大きなきっかけがあったのではなく、やはり元々患者さんのお話を聞いたり、患者さんの相談に乗ったりするのが好きだったことと、総合的な考え方でできる医師が求められる時代の要請もあり総合診療科を勉強してみようと思ったのです。

●いろんなニーズやいろんな状況に、持っている力を広く提供。

…総合診療科の特色はどういうところですか？

僕らの病院での総合診療科というのは、内科の一分野なので、例えば呼吸器とか循環器とかそういった臓器別の内科がいくつかあるのですが、それ以外の内科だったり、あるいは救急部門を少し手伝ったり、訪問診療を手伝ったりと、いろいろな部分を広く診る。あとは外来で、お腹が痛くて、頭が痛くて、咳も出るという患者さんは、呼吸器内科なのか消化器内科なのか、何科なのか分からないという場合。また、患

者さんの相談に乗って受診する診療科の案内をしたりとか、幅広く対応するのが特徴です。僕らだけで解決できる問題もありますし、できない問題は専門の先生に相談したり診療を依頼することもあります。

また、病院によって総合診療科の役割は違っています。水戸協同病院の総合診療科と、県立中央病院の総合診療科と、東京医大の総合診療科は、同じ総合診療科でもその役割は、病院の特徴が違うので全然異なります。例えば僕らの病院には、血液内科がないのです。ないからと診察を断らずに、とりあえず僕らが内科医として診察して、治療を行う疾患もあれば、白血病なのですぐに専門の病院に紹介する場合もあります。血液内科がある病院であれば、総合診療科はまったく診療に関与しない可能性もあります。僕らの場合は病院に救急専門医が1名しかいないので、お手伝いをさせて頂いています。

いろんなニーズやいろんな状況に、僕らの持っている力を広く提供していく柔軟性を持っていることが大事です。また、経験を積んで自分が成長する能力も求められます。自分自身としては、時代や場所や環境に適応できるように、進化し続けていきたいと思っています。自分の領域はここまで決めてしまう方が簡単です。でもなるべくそうしないで、勉強してみてここまでやるねと、そういった気持ちを持った医師になりたいし、そういう気持ちを持った医師を育成していきたいです。

…仕事のやりがい、やっつけて良かったと思うことは？

昨日も、前に入院していた方が別の病気で入院して、また僕が担当することになったのですが、娘さんと話していたら「先生にまた診てもらえるようになって本当に良かった。安心しました」と、涙ながらにおっしゃるのです。病気を治せるかどうかということとは別に、患者さんやご家族に信頼していただけるのがすごくうれしいと思います。信頼に応えよ

うと努力する中で成長できたらいいと思います。それがやりがいであり、一番うれしいことです。

…今後の展望をお聞かせください。

常に進化していく気持ちを失いたくないし、いい仲間、僕と同じような考えを持っている人材を育成していきたい。そういう人たちが増えれば、もし僕ができなくてもお互いに助け合うことができる、そんな仲間づくり環境づくりをしていきたいです。

今、県地域医療支援センターのキャリアコーディネーターとして、若い医師や学生の面談をしているのですが、すごくいい人材が育ってきているので楽しみにしています。茨城県は医師不足県で大変ですが、茨城県で取り組んでいる医師確保対策というのは、おそらく5年、10年で大きく実を結んでくると思います。若い医師たちが、ちょっと違う方向に行きそうな時に、陰で支えて、アドバイスをしていくことが今後の展望というか目標です。

●まごころのこもった医療を提供できる医師になって欲しい。

…若手医師・医学生に向けてのメッセージをお願いします。

自分をきちんと見つめて、謙虚であることが大事だと思います。医者はちやほやされたりするので、自分はできると思ってしまうがちですが、謙虚に自分を見つめ直して、自分に足りないところは何だろうとか、もっと役に立つにはどうしたらいいだろうとか考える気持ちを持って学習・研修して欲しいです。あとは、患者さんを診る時に、自分の肉親だったら、自分の親だったらどうしたいかなという視点で医療をするという気持ちを忘れないで、患者さん一人ひとりに丁寧に接して欲しいと思います。そして、まごころのこもった医療を提供できる医師になって欲しいと思っています。茨城県は患者さんの気持ちとか人の気持ちがすごく優しい方が多いので、研修に適した環境だと思っています。

病院紹介 コーナー

一般財団法人
筑波麓仁会 筑波学園病院
(茨城県つくば市上横場2573番1)



筑波学園病院は、昭和50年に創設された財団法人、筑波麓仁会を基に開院しました。

当院における臨床研究の特徴は、地域に根差した中規模の病院であることを生かしたきめ細やかな指導にあると言えます。臨床研修制度が始まって10年を経過していますが、いまや中堅となった医師は茨城県内をはじめ各地で活躍されているのを耳にしています。

一般的な症例が多数集まり、初期研修医の始まりとして最適な症例が多くあります。指導医は、多くは専門医であり臨床指導に優れていると自負しております。当院を経験した誇れる先輩医師が筑波大学を始め多数おりますので後期研修先にも連続して発展できます。当院研修システムは、基本を主

に経験した後に、将来進むであろう専門医に必要なと思われる診療科を選択して学ぶことができます。当院で経験できない分野に関しては、近隣の病院と連携をとり研修をすることができます。

毎朝開かれる重症病棟での症例カンファやメディカルワークショップ、CPCを通して最新の診療を学びながら各科垣根の低い相談しやすい環境で研修を行うことができます。

病院をあげて初期研修医を歓迎致します。ぜひ見学にいらして下さい。
(副院長 齋藤 重行)

研修医リレーエッセイ

株式会社日立製作所ひたちなか総合病院

初期臨床研修医 長塩 憲司

入職して1年半が経ちました。

研修先のひたちなか総合病院は勝田駅から徒歩10分弱、



近くには那珂湊やひたち海浜公園など風光明媚なスポットが点在する恵まれた環境にあります。研修医と上級医との距離が近く、科と科の垣根が低く、とても

雰囲気の良い病院です。受け持ちの患者さんで困ったことや分からないことがあればすぐに気軽に相談でき、手技も指導医の先生の下で沢山経験できます。看護師や技師などコメディカルのスタッフもとても熱心で親切な方ばかりです。沢山の周りの方々に守られた環境の中で、充実した研修が出来ていると感じています。

最近、過去に自分が担当した症例の院内CPCに参加する機会がありました。時間をおいて担当した症例を振り返ると、恥ずかしく思うことも沢山ありますが、気付かされることや反省・後悔すること、新たに学ぶことなど1年目の自分とは違う視点で新しく発見することが沢山ありました。普段は忙しさを理由についつい担当した症例を経験したまま流してしまいがちですが、きちんと経過を振り返ったり、その後の転帰を気にすることで自分の考え方や認識を修正していく機会を大切にしていきたいと思っています。

平成27年度 夏のイベント開催報告

修学生サマーセミナー(低学年)



なめがた地域総合病院見学

参加者の声

- ・鹿行地域の雰囲気がわかり、参加して良かったと思います。
- ・企業と地域医療の関わりが興味深かった。
- ・小さい診療所のようなものが多いと思っていたが、大きな病院もあることを知って驚いた。ただ非常勤医師が多いという問題が見えてきて、地域医療の問題点を知った。

日時/平成27年8月19日(水)~8月20日(木)

対象/修学生・地域枠学生1年~2年

- 内容/ ●サンロード鹿島「鹿行地域の概要」 ●鹿島神宮散策
- 小山記念病院、白十字総合病院、なめがた地域総合病院(見学)
 - 先輩医師とのグループディスカッション ●地域で活躍する医師の講義
 - 港公園散策 ●新日鐵住金鹿島製鐵所(講話・見学)
 - カシマサッカースタジアム/アントラースクリニック(講話・見学)
 - 交流会 ●宿泊/鹿島セントラルホテル

修学生サマーセミナー(中学年)



筑波大学附属病院ヘリポート見学

参加者の声

- ・今回のサマーセミナーでは、学生の自主性を促すものが多く感じた。自ら進んで他大学の学生と接することができた気がする。
- ・医師が十分に足りているつくば周辺では、それぞれの病院がそれぞれの役割を果たしていることを知った。

日時/平成27年8月14日(金)~8月15日(土)

対象/修学生・地域枠学生3年~4年

- 内容/ ●つくばサイエンス・インフォメーションセンター「つくば地域の紹介」
- 筑波大学附属病院、筑波学園病院(見学)
 - 地域で活躍する医師の講話
 - 筑波メディカルセンター病院(見学)
 - 筑波ふれあいの里(バーベキュー)
 - 交流会 ●宿泊/筑波研修センター

修学生サマーセミナー(高学年)



先輩医師とのグループディスカッション

参加者の声

- ・マナー講座は興味があったので非常に参考になった。
- ・新専門医制度や研修について聞いて良かった。
- ・同じ修学生と交流できる機会を設けて下さりとても感謝している。
- ・研修医の先生方と交流できた点が良かった。

日時/平成27年8月22日(土)~8月23日(日)

対象/修学生・地域枠学生5年~6年

- 内容/ ●キャリア形成について(専門医制度等)
- 接遇・社会人マナーについて
 - 先輩医師とのグループディスカッション
 - 自治医科大学県人会学術集會参加(北茨城市民病院)
 - 交流会 ●宿泊・会場/三の丸ホテル

地域医療研修会



医療機関見学

参加者の声

- ・大子町で各医療機関の先生方が頑張っている姿を見ることが出来てよかった。とてもやりがいがあると感じた。医療機関によってやり方が異なり、先生方の背中から学ぶことが多かった。患者と話をしたが、1人でも欠けたら困るという話をされ、本当に先生方の存在の大きさを感じた。へき地医療の経験と永井先生からの学びのヒントなどとてもよい勉強になり、大切な経験となった。

日時/平成27年8月5日(水)~8月7日(金)

対象/医学生

- 内容/ ●大子町内医療機関の見学
- 院内診療・救急医療の立会い、往診同行
 - 地元医療機関医師等、関係者との意見交換および懇親会

茨城県からのお知らせ

茨城県地域枠募集のご案内

将来、知事が指定する医療機関において、医師の業務に従事しようという意思のもと、茨城県地域枠で以下の7つの大学医学部に入学された方に対して「茨城県医地域医療修学資金」を貸与します。

受験資格

- 次のいずれかに概要するもの
- (1) 県内の高等学校を卒業した者(見込みを含む)
 - (2) 県内に居住する者の子
- ※平成28年4月に茨城県地域枠入学者として入学した後、修学資金貸与のための契約を締結します。

貸与額 150,000円/月

貸与人数(計39名)

- 筑波大学 22名 東京医科大学 8名
東京医科歯科大学 2名 杏林大学 2名
日本医科大学 2名 北里大学 2名
帝京大学 1名
- ※日本医科大学は「地域医療医師修学資金貸与と制度枠」として設置しています。

県の面接

- 筑波大学・東京医科大学
- 応募期間 平成27年9月2日(水)~10月5日(月)(当日必着)
県面接日 平成27年10月17日(土)または18日(日)
- 東京医科歯科大学・杏林大学・日本医科大学・北里大学・帝京大学
- 応募期間 平成27年10月7日(水)~11月10日(火)(当日必着)
県面接日 平成27年11月21日(土)または22日(日)

茨城県地域医療支援センター

茨城県水戸市笠原町978番6(保健福祉部医療対策課内)TEL:029(301)3191

<http://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/iryo/ishi/isei/ishikakuho/top/index.html> E-mail:i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp